

Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

開放的な空間や風景写真で心安らぐ場に

②③⑦ 中部国際医療センター（岐阜県美濃加茂市）



100年以上もの間地域医療を支えてきた病院が、新たな健康の中枢拠点として生まれ変わった

理念に「全ては病める人のために」を掲げ、1913年から100年以上、岐阜県美濃加茂市で地域医療を支えて来た木沢記念病院が「中部国際医療センター」へと生まれ変わったのは2022年1月。市内の高台に位置し、病院から市街地を一望出来る新築移転先の住所表示「健康のまち一丁目1番地」は、美濃加茂市の「メディカルシティ構想」の中枢拠点となる事を期待されて名付けられた。

新病院の建設に当たっては「利用者に優しく、訪れ易い病院」を目指したといい、正面玄関を入ると3階部分まで吹き抜けの開放的な空間が広がる。ここはホスピタルモールと呼ばれる院内の動線の基軸で、自然光をふんだんに取り入れ、植栽も配置される等、来院者の心が安らぐ場となるよ

うな配慮が随所になされている。

ホスピタルモールには数多くのラウンジが設けられ、芸術性が感じられる家具や備品をホテルのようなスタイリッシュな空間に配置。1階ラウンジにはピアノや大型デジタルサイネージも置かれている。患者や家族らは、こうしたラウンジで思い思いに待ち時間を過ごす事が出来る。

又、建物の周囲には緑豊かな散策路が在り、患者のリハビリの場として活用されている他、ベンチで寛ぐ地域住民の姿も見られる。

各階のエレベーターホールや病棟ラウンジには、山田實純理事長が世界中で撮影した風景写真をパネルにして配置。旅をイメージする事で見る人が前向きな気持ちになれるようにとの願いが込めら



大型モニターを擁し、モダンでホテルライクなラウンジ



豊かな景観とアートを楽しむ病棟のデイコーナー



地域の人も気軽に利用出来るブックストアを併設



ホールやラウンジに飾られた山田實純理事長の写真作品



夜には星空を臨む会員制健康増進施設「クラブM」



院内では音楽イベントも開催される

れている。

市民の健康作りに貢献出来るよう、病院の附属施設として会員制の健康増進施設「クラブM」も設けた。予防医学に基づいた運動プログラムを提供し、病院の医師とも連携しながら、生活習慣病の予防や改善、健康な体作りをサポートする。

職員が働き易い環境作りにも力を入れ、敷地内に保育園を設けた。定員は80人で、小さな子供が居る家庭でも、安心して子供を預けて働く事が出来る。

「中部国際医療センター」という病院名には「世界に通用するハイレベルな医療を提供する」との決意を込めた。診療科33科の他、専門性を高めた高度専門医療部門や、がん専門部門を設置。502

床の入院病棟とハイブリッド手術室を含む11室の手術室も有る。23年夏頃には、陽子線がん治療センターも開設され、世界の先端を行く米・バリアン社の陽子線治療装置を日本で初めて導入する予定だ。こうした高度な医療設備を用意すると共に、7カ国語に対応出来る態勢を整え、外国人患者受入れ医療機関認証制度の認定も取得。医療渡航支援企業とも連携し、日本の高度な医療を求める外国人患者の受け入れも開始した。

引き続き地域医療の中核を担い、最先端医療を牽引するだけでなく、将来は世界の医療拠点として、多くの人の健康に貢献する事を目指している。

設計：株式会社久米設計

建築・施工：フジタ・TSUCHIYA 特定建設工事共同企業体